

環境情報センターだより

発行 宮城県保健環境センター
住所 仙台市宮城野区幸町 4-7-2
TEL 022-257-7183
FAX 022-257-7194

2009 年
第 3 号
2009. 3. 3

“冬来たりなば春遠からじ”(イギリスの詩人シェリー「西風に寄せる歌」から)。いよいよ自然界の動植物が活動する季節となりました。

センターのシンボルツリーとなっているメタセコイアの芽吹きはまだですが、蔵王おろしのやや冷たい春風に吹かれて枝音が聞こえます。昨年、環境学習に参加した子供達がメタセコイアの大きさを測定しましたが幹周り約2.6m、高さは約31mの大木でした。メタセコイアは和名ではアケボノスギと言われスギ科メタセコイア属の針葉樹です。(企画総務部)



◆「HESD フォーラム 2008 「サステナビリティに向けた大学教育の挑戦」

このフォーラムは昨年 12 月に立教大学 ESD 研究センターにおいて開催されました。参加した大学から、人材育成においては専門性のほか社会性を身につけた学生の育成が共通の目標であり、そのための ESD のカリキュラム導入や実践教育について報告がありました。また、環境省からは、長期的な視点に立って持続可能な社会づくりを推進する環境人材育成の方向性や、全国レベルまたは地域レベルをコアにした大学・NGO・企業・行政の連携による環境育成コンソーシアムを平成 21 年度に設立することについて、紹介がありました。

*HESD：持続可能な開発のための高等教育

◆「環境学びのつどい「なちゅれ！2009」の開催

2月7日、せんだいメディアテークにおいて「みやぎ環境学習パートナーシップ会議」主催の環境学習フォーラムが開催されました。

NPO 法人アサザ基金の飯島氏による「環境教育からはじまる価値創造のネットワーク～霞ヶ浦アサザプロジェクト～」の講演，また，参加 13 団体からミニアクアリウムやネイチャークラフト体験，ネイチャー検定など活動内容を紹介した展示が行われました。



環境情報センターは，環境学習のパネル展示や太陽光発電エネルギーを使った水の電気分解により発生した水素による発電について展示しました。会場は家族連れの子供達など約 250 名の方の参加があり，市民交流や各団体との交流が行われました。

お知らせ！！ 環境教育リーダーの活動の様子(写真, 記事など)をお知らせください。
センター便りに掲載したいと考えています。

センター周囲の生きもの

◆ ニホンミツバチ

センターの敷地内には少なくとも 3 か所のミツバチの巣があります。近づきすぎた職員が刺されましたが，大事には至らなかったようです。ニホンミツバチはもともと日本列島に生息していた種です。これに対して今，養



ニホンミツバチ {昆虫エクスプローラ (<http://www.insects.jp/>)}



冬ごもりのミツバチ (1月)

巣の拡大 (板壁の隙間に営巣)

蜂業で主に飼育されているのは明治以降に移入されたイタリアン種の西洋ミツバチです。蜜の採取量は西洋ミツバチが優れており，日本全国で飼育されるようになったものです。しかし，ニホンミツバチは病気に対して強く，取れるはちみつも高級品として珍重されることから，一時は絶滅が心配されたものの全国に愛好者が増え回復している様子です。性格は温和ですが，

黄色スズメバチに対しても集団で迎え撃ち壊滅的被害にはなりません。当センターの敷地内には桜の並木があり，春には満開の花を楽しませてくれます。またクローバーの絨毯もあり，人間の視覚はもとより，ハチたちにとって格好の蜜源になっているようです。またセンター北側周囲には旧仙台市街の北辺を縁取る形で東仙台から国見にかけて帯状にケヤキなどの落葉樹を中心とした林が連なっていて野生生物の恰好な住処となっているようです。巣の存在は10年以上も前から知られていましたが，以前は1か所だったものが現在は3か所に増えています。ミツバチにとっては居心地が良いのかもしれません。

(文・写真 保健環境センター 加藤謙一)



巣の外壁全容



4月下旬満開の桜



◆ 今回購入した図書、DVDソフトの概要を紹介します。どうぞご利用ください。

なお、貸出についてはホームページ「環境学習」のページをご覧ください。

■ 図 書

《暮らしと環境科学》

日本化学会（編） 東京化学同人（発行所）

概要：自然環境や生物，地球規模の環境問題，水・食・住まいと環境，化学物質の健康影響と安全管理，ごみとリサイクル等，環境の現状を理解するのに基本的な事項についてわかりやすく解説。また，経済，政策，社会など自然科学以外の観点からも環境問題を考えます。

《環境化学》

齋藤勝裕，山崎鈴子（著） 東京化学同人（発行所）

概要：環境化学の全領域を一冊にまとめた入門書。地球環境を化学的にとらえたあとで，私たち

の生活と化学物質とのかかわり、そして現在、大きくクローズアップされている地球環境問題とその解決へ向けた取り組みについて、わかりやすく説明しています。

《 植物の生存戦略 ～「じっとしているという知恵」に学ぶ～ 》

「植物の軸と情報」特定領域研究班(著) 朝日新聞社(発行所)

概要:植物が動物と違うのは動けないこと,その植物が動物以上に地球上で繁栄しています。植物は、「動けない」のではなく、「動かない」生き方で成功しています。「動かない」植物の合理的な生存戦略を紹介します。

《 身近なムシのびっくり新常識 100 ～いもむしが日本を救う? めったに見つからないカブトムシ?～ 》

森昭彦(著) ソフトバンククリエイティブ(発行所)

概要:庭や公園,裏山などにあたり前のようにいる多くのムシたち。その世界や生態をじっくり観察すると,びっくりするほどの驚きに満ち溢れています。ムシを愛してやまない著者がこの魅力あふれる世界を解説します。

《 金属のふしぎ ～地球はメタルでできている! 楽しく学ぶ金属学の基礎～ 》

斎藤勝裕(著) ソフトバンククリエイティブ(発行所)

概要:私たちの生活は「金属」がなければ成り立ちません。体細胞には鉄が必要であり,ゴハンがおいしいと感じるのは亜鉛のため。物質は原子でできており,その原子のうち,75%以上を金属が占めています。金属の種類や特性,危険性などを,楽しくわかりやすく紹介します。

《 海ゴミ ～拡大する地球環境汚染～ 》 小島あずさ, 眞淳平(著) 中央公論新社(発行所)

概要:日本の全ての海岸が大量の漂着ゴミで覆いつくされようとしています。それらのゴミはなぜ発生し,どこから来るのか。また私たちの生活や生態系にどのような影響を与えつつあるのか。いま求められる対策とは何か。忍び寄る海ゴミの脅威の実態に迫ります。

《 海はゴミ箱じゃない 》

眞淳平(著) 岩波書店(発行所)

概要:日本各地の海辺に大量のゴミが流れ着いています。どこから,どんなゴミが流れてくるのか,生態系への影響はないのか。増え続ける漂流・漂着ゴミの実態をレポートし,それらを減らすための様々な取り組みを紹介します。

《 謎解き・海洋と大気の物理 ～地球規模でおきる「流れ」のしくみ～ 》

保坂直紀(著) 講談社(発行所)

概要:高低差がない海に,海流があるのはなぜか,エルニーニョが遠い日本にも影響をおよぼすのはなぜか。大海原や広大な空でおきる不思議な現象を演出する「コリオリの力」の正体に迫り,海洋物理学から気象学,気候学までわかりやすく解説します。

《 海の科学 ～海洋学入門(第2版)～ 》

柳哲雄(著) 恒星社厚生閣(発行所)

概要:海を知りたいと思う人に、最新の系統だった海洋学の知識を伝えるための本。海の誕生や歴史、海水の特性、海流や波・潮汐、海洋系生態系の特徴、海の物質循環、洋汚染などについて紹介します。

《 海洋地球環境学 ～生物地球化学循環から読む～ 》

川幡穂高(著) 東京大学出版会(発行所)

概要:地球的規模の環境問題を解決するためには、過去から現在に至る地球表層環境システムを系統的に理解することが不可欠です。海洋での実例を通じて、固相に残された化学的特徴の様々なパラメータを整理し、地球環境を支配する仕組みを解き明かしていきます。

《 環境教育 BOOK 水と地球 》

大森亨(編) フォーラム A(発行所)

概要:水と植物、水と人間、水の惑星としての地球、自然界の水循環、川と陸地とその境=海岸・水辺について、「水」をキーワードにして地域・日本・地球を調査・探究・学習していく上でいくつかの糸口を提案します。ワークシート全50回分を収録しています。

《 環境学習を始めよう ～子どもの瞳が輝く授業～ 》

大森亨(著) ルック(発行所)

概要:どの子にも基礎学力がやせ細ることなく、平和・人権・環境という21世紀にふさわしい基礎的教養を、豊かに保障していく教育がいま求められています。環境学習の実践的授業を紹介します。

《 おもしろ理科実験集 》

工学院大学企画部(編) 工学院大学企画部(発行所)

《 おもしろ理科実験集(2) 》

後藤道夫, 米村伝治郎(著) シーエムシー(発行所)

《 子供にウケる科学手品77 ～簡単にできてインパクトが凄い～ 》

後藤道夫(著) 講談社(発行所)

《 もっと子供にウケる科学手品77 ～もっと簡単にできてもっとインパクトが凄い～ 》

後藤道夫(著) 講談社(発行所)

《 すごい！うちでもこんな実験ができるんだ!! ～米村でんじろう先生のスーパー個人授業～ 》

米村でんじろう(著) 主婦と生活社(発行所)

《 地球環境が目で見えてわかる科学実験 ～地球温暖化, 大気汚染, 紫外線, 風力発電, 省エネまで～ 》

川村康文(著) 築地書館(発行所)

《 学研の中学生の理科自由研究 地球環境編 ～水と空気とくらしをチェック！～ 》

学研(編) 学習研究社(発行所)

■ DVDソフト

《 地球交響曲第四番 》

瀧村仁事務所(販売元)

概要:21 世紀に生まれ育つ子どもたちのために、今の私たちに何ができるのか。「地球交響曲」を通して、世界の何人かの人々の生き方、考え方を提示し続けたい。「ガイア理論」の創設者で生物物理学者のジェームズ・ラブロック、巨大な波を乗りこなすサーファーのジェリーロペス、野生生物の保護・熱帯雨林の保護・子どもたちの教育プロジェクトに打ち込んでいる野生チンパンジー研究家のジェーン・グドール、母なる星・地球と会話する回路を持っている版画家の名高睦稔の4人が語ります。

《 地球交響曲第五番 》

瀧村仁事務所(販売元)

概要:全ての存在は繋がっている。新しい生命の誕生には必ず陣痛の苦しみに伴い、この苦しみは母なる星地球が、わが子人類のために、35 億年の歳月をかけて用意した慈しみの苦しみです。「第五番」は、20 世紀末に受胎した地球交響曲の魂が母の子宮の中で、「第一番」から「第四番」と順調に成長し、21 世紀初頭の陣痛の苦しみを経て、今まさに新しく生まれ変わろうとする映画です。草木染織作家の石垣昭子、哲学者・未来学者のアーヴィン・ラズロ、産科医の大野明子、第一番から第四番までの出演者などが登場します。

《 地球交響曲第六番 》

瀧村仁事務所(販売元)

概要:全ての存在は響き合っている。めざましい科学の進歩によって、この宇宙の全ての存在は、原子から私達人類、自然、銀河系まで、みな独自の“音楽”を奏でていることがわかってきました。我々が住むこの世界は、生々流転する全ての存在が互いに響きあい、次々と美しいハーモニーを生みだしつつ演奏されてゆく、壮大な交響曲(シンフォニー)のようなもの。「第六番」は「音を観て、光を聴く」旅、この世の全ての存在をつなぐ耳には聴こえない音楽“虚空の音”を描き出す映画です。シタール奏者のラヴィン・シャンカール、ピアニストのケリー・ヨスト、海洋生物学者のロジャー・ペインなどが出演します。

《 私たちが水環境を学ぶために ～日本の水をきれいに～ 》

(社)日本の水をきれいにする会(企画・制作)

概要:20 世紀の中頃から、汚染された日本の川の水質は、近年、工場排水の対策や下水道の整備などで回復に向かっています。しかし、水辺をみると、生き物がいなくなったり、ゴミが捨てられていたり、人や生き物にとって決して望ましいとは言えない状況が多くみられます。このような日本各地の水環境の状況、それに関わる人々の活動などを紹介しながら、私たちがよい水環境を守っていくために何をしたらよいのかを考えます。